



FIWA®マンスリー・セミナー講演より 達人たちの投資哲学

講演： 岡本 和久
レポーター： 赤堀 薫里

伝説の投資家と呼ばれる人たちの投資哲学についてお話をします。有名な人にはバフェットさんやピーター・リンチさんなど、いろいろな人がいます。どの人も哲学を持っている。彼らなりにマーケットをどういう切り口で見たら自分の投資に役立つか、自分の成果が上がるのか、はっきり理解をして、そこを極めていきます。



概してマーケットが自分のやり方に合わない時は、防衛的な大きく負けないポートフォリオにして、自分のやり方に合っている時は積極的に出る。そういうことをやっている人が多いと思います。達人という人たちは、私の印象では絶対的な自信を持っていません。自信過剰になっていないのです。自分が間違える可能性もあることを前提におき、その時でも致命傷にならないような手を打ちながら、自分の最高の力が出せることをやっています。そういうところはやっぱりプロだなと思います。素人さんこそ自信を持って『こうに違いない』と思い、そこに全部かけてしまうことになりませんが、プロにはそんな人はいません。間違ったときのことを考える。

不易流行という言葉があります。不易というのは変わらないということです。投資哲学は変わらない。流行は流れゆくもの。短期的なマーケットの状況です。投資信託などで我々が達人たちの運用をどう使うのかは、さまざまな投資哲学を自分のニーズにあわせてどう使うのかということにあると思います。

価値と価格の違いを理解することはとても大切です。現在の価値よりも価格の方が高い場合、バリュート分析で見ればあまり魅力がないわけです。しかし、グロース戦略で見た時は、何年後かに価値が価格よりも大幅に高い位置にいくと予想できるなら、現在は株価が価値より高くても、今は安いと判断することもあり得るわけです。逆もしかりです。

バリュート分析でいえば、現在の価値よりも現在の価格が安ければすごく魅力があります。しかし、この会社の今後の成長はないと考え、将来の価値は現在の価格よりもずっと下に下がってしまうと判断したときは、将来を考えた場合、現在の価格でも高いわけです。結局、価値と価格はどこを



